

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0970101879		
法人名	社会福祉法人 正恵会		
事業所名	グループホーム 宝寿の里(宝ユニット)		
所在地	栃木県宇都宮市宝木本町1769-1		
自己評価作成日	平成29年11月30日	評価結果市町村受理日	平成30年2月27日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成29年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念のもと、職員一同がご利用者様と共に生活をしており、年間行事計画など多く計画しております。ご利用者様の高齢化も進み状況に応じた行事内容を取り入れ、一年を通してご利用者様には楽しんで頂いております。また、職員一人ひとりが自分の役割を理解し、ご利用者様が満足して頂けるよう日々取り組んでおります。また、専門性の習得にも自主的に取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、市西部の、田園に囲まれた閑静な場所にある。職員は、利用者の安心・安全をモットーに、家庭的な環境の中で、利用者が有する能力に応じて、自立した日常生活を送れるよう支援することを心掛けている。老人会との交流、ボランティアの受け入れなど、積極的に地域とのふれあいに努めている他、職員の企画により実施する事業所内行事や旅行は、職員、家族、利用者の交流の機会となり、利用者の楽しみになっている。職員は、互いに何でも言い合える関係づくりに努め、日々の申し送り、連絡ノートの活用等、日々の気づきをケアに活かす工夫をしている。法人会議や各種研修にて、職員の学びを深め、医師、訪問看護との連携のもと、看取りにも取り組むなど、利用者・家族の思いに沿ったケアの提供に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、ホーム理念は朝礼の申し送りの際唱和しており、共通認識にて一日のケアが始まります。	「忠恕をもって共に歩む」という法人理念をもとに作成した事業所理念を事務室に掲示し、毎朝の唱和を繰り返すことにより意識づけし、ケアの統一化を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	仁宝会(老人会)に1/2ヵ月参加し、地域のボランティアの方に来苑して頂いております。また、恒例行事である8月の地域交流盆踊りへ参加しております。	自治会に加入し、地域の祭りに参加したり、バーベキュー等事業所の行事に招待するなど、老人会との交流を積極的に行っている。定期的に歌・フラダンスなどのボランティアの来訪もあり、利用者の楽しみになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会に参加することにより、地域の方へ認知症の方の理解と協力を伝えております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヵ月に1回開催しており、行事報告や今後の取り組みの内容を提案し、話し合いをしております。	利用者状況及び行事報告を主な議題として、自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員等の参加のもと、2ヵ月に1回開催している。会議録は請求と併せて家族に送付している。	家族の参加が得られるよう日程を工夫する他、多方面から様々な意見を引き出すような議題の設定や、議題に合わせた参加メンバーの検討、議事録の記載の工夫等、会議がより活発な意見交換の場となるような取り組みに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度や運営等に対しての相談はさせて頂いております。事故発生時は、市役所担当課に報告し、助言、指導頂いております。	直接出向いて相談や報告をするなど、顔が見える関係づくりに努め、協力関係を築いている。日頃からこまめに連絡をとり、事故発生時等は速やかな報告を心掛けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員一同周知徹底し、その都度話し合い確認をしている。玄関は、基本施錠を行っていませんが、緊急時(一時的)の時は、鍵をかけている。	「自分がされて嫌な事はしない」を基本としたケアに努め、言葉による拘束についても、法人で実施する接遇研修の中で学びを深めている。職員同士で日々確認、注意し合いながら、身体拘束のないケアの徹底に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に、ご利用者様への言葉遣い等に注意を払い、身体確認等、記録上での状況確認。また、研修会への参加をしております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・職員は理解しております。必要時には、ご家族様へ提案し、また、内外学習に参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要説明書の説明を行い、内容については、ご理解を頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会で、意見や要望の話す機会を設け対応している。また、アンケートを実施し、運営に反映するよう取り組んでおります。	日頃からこまめに電話連絡をし、利用者の様子を伝えると共に、要望等を伺っている。意見や要望を表してもらう機会として、年1回、家族交流会を実施している。出された意見・要望は記録に残し、職員間で共有し、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者との年数回の話し合いの中で、ホームでの実践する内容や目標を掲げ意見交換の場を設け、より良い環境づくりに取り組んでおります。	年3回、代表者との話し合いを行う他、主任会議を毎月実施するなど、職員が意見を表せる機会を多く設けている。申し送りノートを活用し、ケアに関する相談、リスクマネジメントに関する提案などがあり、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得や職員のやりがいが持てるような規定で取り組んでおります。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人での全体会議の研修やチューター研修等(各ユニット1名のチューターを配置)に取り組んでおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県認知症高齢者グループホーム協会に入会し、情報の共有や研修等に参加している。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様の表情や行動を見極め、会話や外出の機会を増やし不安状況を出来るだけ抱えない環境づくりに取り組んでおります。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での定期的な状況報告と、面会時には、要望・意見交換をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様のニーズに合わせた対応と今後の状況を視野に入れ、ケアマネージャーや施設職員に相談や連携が図れるよう努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の態度や行動を理解し、その方に合ったケアをし同じ目線での対応をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月ご利用者様の状況を文章で報告しております。また、普段の生活状況を見て頂いたり、面会時には、日々の生活状況をお伝えし、共有して頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が来苑された時は、ご本人様の居室で過ごして頂いております。馴染みの場所は、本人や家族の協力を得て実施出来るよう努めております。	友人に気軽に来訪してもらえよう配慮したり、家族からの情報を参考に、馴染みの場所を把握し、自宅や商店の近くまでドライブするなど、関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様の趣味や生きがいとする事を把握し、出来るだけ関わりがもてるよう支援しています。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後でも、ご家族様からの相談等があれば、出来る限りの対応をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活状況にあったケアが出来るよう、職員間での情報の収集や共有に努めております。	日々の関わりの中で、表情、しぐさ等を観察し、家族からの情報も参考にしながら、思いや意向の把握に努めている。職員と1対1になる時に本音がしやすいことから、入浴介助中の会話も大切にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人様、ご家族様、ケアマネージャーから情報収集をさせて頂いております。入居後もご家族様と共有しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の個々の一日の状況を記録に残し、毎日バイタル測定体調管理に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様からの要望や希望を伺い、ケアマネージャーと職員全員で課題等を話し合い、ご利用者様お一人おひとりに合ったケアプランを作成しております。	ケアプランに対する達成状況を記した書類をもとに、毎月の状況を家族に報告している。モニタリングは6か月毎に行い、状況変化に応じて、利用者一人ひとりに合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の個々の日々の記録等から、職員間で話し合い、ケアに活し実践しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様からの要望があれば、出来るだけ沿えるよう配慮させて頂いております。また、ご家族様からの相談、通院支援、介護保険の更新の手続き等も行っております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入し、消防の方の協力を頂き、避難訓練を実施しており、一人外出をされる方のご家族様より了承を得て、駐在所への情報提供を行っております。ご近所の方へ配れるよう写真の保管をしております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者様一人一人かかりつけ医を決めており、基本ご家族様対応していますが、場合によっては職員が対応しております。また、ご家族様の希望、確認により、往診、訪問看護、事業所との関係を築いております。	利用前からのかかりつけ医の受診を基本としているが、希望により往診、訪問看護も利用できる。受診状況の記録を医師、家族、職員間で共有し、適切な医療を受けられるよう連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご利用者様のケアの中での気づき等を早期発見に努め、特変があった場合は、速やかにドクター、訪問看護に状態の報告・相談を行い連携しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関において病院関係者と話し合いの中で、早期退院出来るよう情報交換を行っています。入退院時にご家族様への不安がないよう配慮し医療関係者と連携に努めております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、ご家族様に医療方針を説明し、希望を伺っております。また、重度化や終末期の場合は、ご本人、ご家族様の意向確認をしながら、主治医、訪問看護と連携し、施設で出来る事を行っております。	利用者各々の主治医、訪問看護との連携のもと、医療行為が発生しない限りは事業所での看取りに取り組み、実績もある。看取りに関する指針を説明し、段階に応じて意志確認書により希望を伺い、本人・家族の希望に沿って体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は、2年に一度救命救急講習を全職員参加することにしております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に3回避難訓練(昼・夜)を行っており、自治会の参加することにより地域の皆様にご理解頂き、協力体制を確保しております。	年3回、消防署立ち合いの訓練及び自主訓練を実施している。民生委員・自治会長に見守りの協力を依頼したり、地区の消防団に訓練参加を呼び掛けるなど、協力体制を整えている。水・缶詰等の備蓄も確保している。	運営推進会議の開催に合わせて訓練を行い、地域住民を含めた協力体制の構築を検討したり、すべての職員が安全な避難方法を身につけるためにも、定期的に自主訓練を実施するなど、更なる取り組みに期待したい。

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様一人ひとりの尊厳やプライバシーの確保を十分理解し、全職員対応しております。	排泄介助等は耳元でさりげない声掛けをする、目線の高さを合わせて話をするなど、年長者として敬う対応を心掛けている。個人情報関係書類は事務室で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人様の思いや希望を決められるように支援しております。また、訴えの困難なご利用者様の表情言動を察知し、対応できるよう支援を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人ひとりのリズムやペースを第一に考えて支援を行っております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の希望に添い、今まで使用していた愛着の物を使用出来るようにしています。また、訪問美容の方に来て頂き、ご本人様の希望を出来るだけ取り入れ支援しております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員との会話の中で、食べたいもの(外食も含め)を言って頂き提供出来るよう支援しております。食事作り、準備、後片づけ等は状況に応じてお手伝い頂いております。	その日の冷蔵庫の食材を用いて、利用者の好みに合わせて職員が調理している。利用者と職員と一緒に買い物に出かけたり、後片付けをしたりと、家庭的な雰囲気の中で食事を楽しむことを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食のバランスを考え、主治医との連携を図り、ご利用者様一人ひとりの状態を把握し、水分量の確認をし対応しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者様の状況に応じ、毎食後の口腔ケアを実施しております。また、ご本人様、ご家族様の希望にて、週に2回は訪問歯科にて口腔ケアを行っております。		

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿失禁が見られる様になったご利用者様には、トイレの声掛けを行っている。排泄介助が必要なご利用者様には、その方に合わせた排泄の工夫で、なるべくトイレで排泄できるよう職員は努力しております。	申し送りや職員間の連絡ノートを活用しながら、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。介助時は羞恥心に配慮した対応に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の水分補給、日中のテレビ体操を行い予防に努めております。また、主治医、訪問看護師と相談をし、自然排便が出来るよう取り組んでおります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調管理を確認した上で、ご本人様の気分や希望に応じて入浴を楽しんで頂いております。	入浴は週3回、利用者の希望や身体状況に合わせて支援している。拒否のある人には、声掛けのタイミングを工夫したり、入浴剤を活用する等、無理強いせず、季節を感じながら入浴を楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、安眠や休息の支援を行っております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の目的や副作用は、全職員が理解しており、その症状や変化を見逃さないように支援しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の生活歴を参考に、楽しみや役割を持ち、季節感のある行事を計画して外出しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	戸外に出られるよう、散歩や近場のドライブ、買い物に行ったりしております。また、行事計画にて一泊旅行等にご家族様にも参加、協力して頂けるよう支援しております。	日常的に近隣を散歩している他、希望に応じて買い物やドライブ等の外出を支援している。家族の協力を得て、計画を立てて一泊旅行に出かけることもあり、利用者・家族・職員の交流の機会にもなっている。	

グループホーム宝寿の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は、ご家族様と相談した上でご本人様が管理出来る範囲で行って頂いております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様より希望があった時に、施設の電話を使用しご本人様の出来る範囲で行い、他は職員が支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間にソファを置き、職員の工夫で季節感のある飾り物を行ったり、中庭や玄関にはお花の鉢植えを置いたりしている。	壁には利用者の作品や飾り物を施し、季節を感じられる工夫をしている。LEDの照明を設置し、快適な明るさに配慮したり、利用者が縫ったぞうきんで掃除するなど、清潔を心掛けている。居間は広く、くつろげる場となるよう、ソファを設置したり、イベントの場としても活用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や居間は共有空間ということもあり、周りの声が聞こえてしまうが、気の合ったご利用者様同士で同じテーブルで話したい時には、配置を変えたりして支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様に合った使い慣れた馴染みの物等、ご家族様に伺い好みの物を活かした生活空間を提供しております。	カーテン・タンス・机・ベッド等が備え付けられ、使い慣れた小物、位牌等、好みのものを自由に持ち込むことができる。居室の掃除は利用者と職員が一緒に行い、心地良い空間作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に、ご利用者様の表札を付けたり、安全な環境で生活の支援が出来るよう工夫しております。		